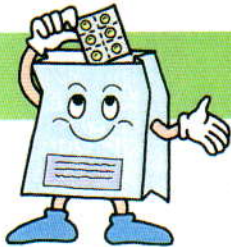


—HEALTH—

×健康に関する不安・悩みに **専門の先生がお答えします。**

お薬のおはなし

Vol
1見逃しがちなインフルエンザに関連する
薬の使用上の留意事項

最近のCDC(米国疾病予防管理センター)からの情報には薬の使用にあつたつでの留意事項が多くあります。中でも見逃しがちな留意事項を挙げてみたいと思います。

インフルエンザの主な症状の中に熱発があります。通常のかぜの症状でも熱発は多く見られます。インフルエンザの流行時に一般に売られている解熱鎮痛剤(熱さまし、痛み止め)を安易に飲ませるのは、やめてください。解熱鎮痛剤の多くにはアスピリンやインドメタシンを含有するものがあります。この成分が症状を悪化させ、急性脳症を引き起こし、死に至ることもあるからです。以前に熱発に処方された薬でも同様のことは言えます。新型インフルエンザA(H1N1)の確定例、疑診例のいずれでも、わが国ではジクロフェナックナトリウム製剤(商標ボルタレンなど)やメフェナム酸製剤(商標ポンタールなど)は使用を禁止されています。かかりつけの医師、薬剤師、発熱相談センターに相談するか、子供さんの場合は小児科医に相談し、勝手に市販の風邪薬を服用させないようにしましょう。

抗インフルエンザ薬について、行動異常を引き起こすことは知られていますが、薬が効いて、熱が下がり、症状が緩和しても、学校や職場に行くことは発症してから最低7日間は控え自宅にとどまりましょう。これは新たな感染の拡大を引き起こす原因となります。外出も医療機関受診以外は避けるようにしましょう。

薬局 **タロファーマシー**いわき市平谷川瀬字明治町91-1
☎25-3600・FAX25-3655